



証券コード：7963

2020年12月期 決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

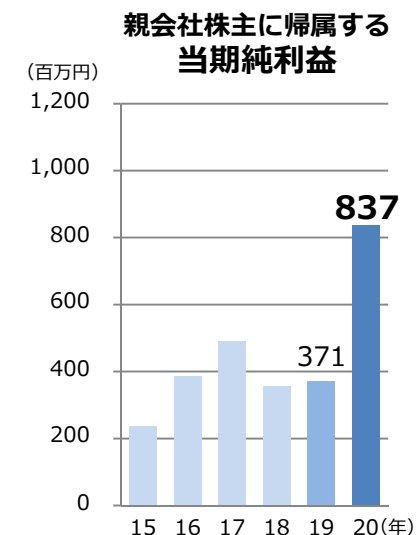
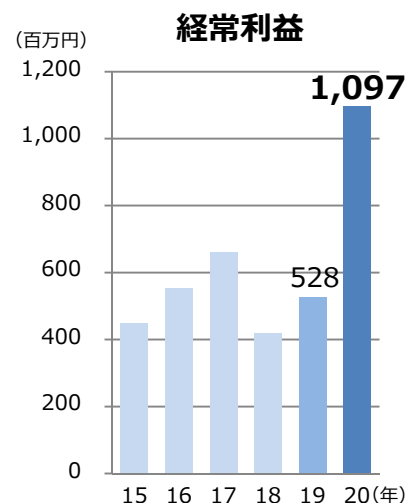
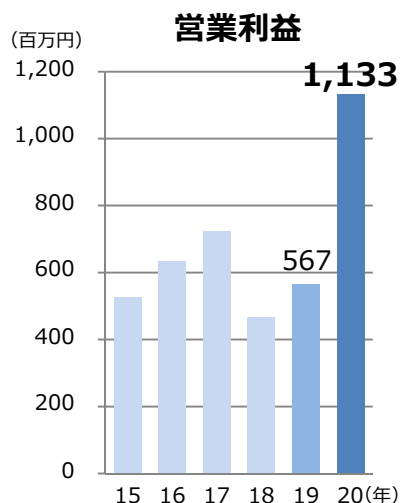
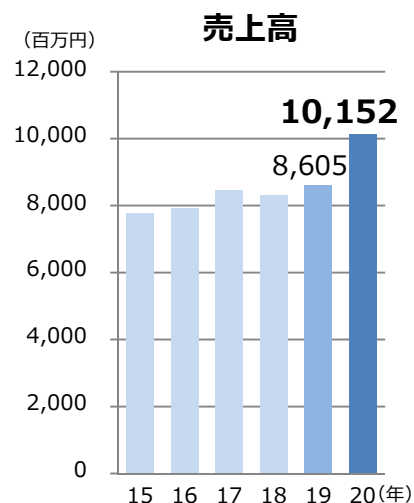
クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
 **興研株式会社**

連結損益の状況

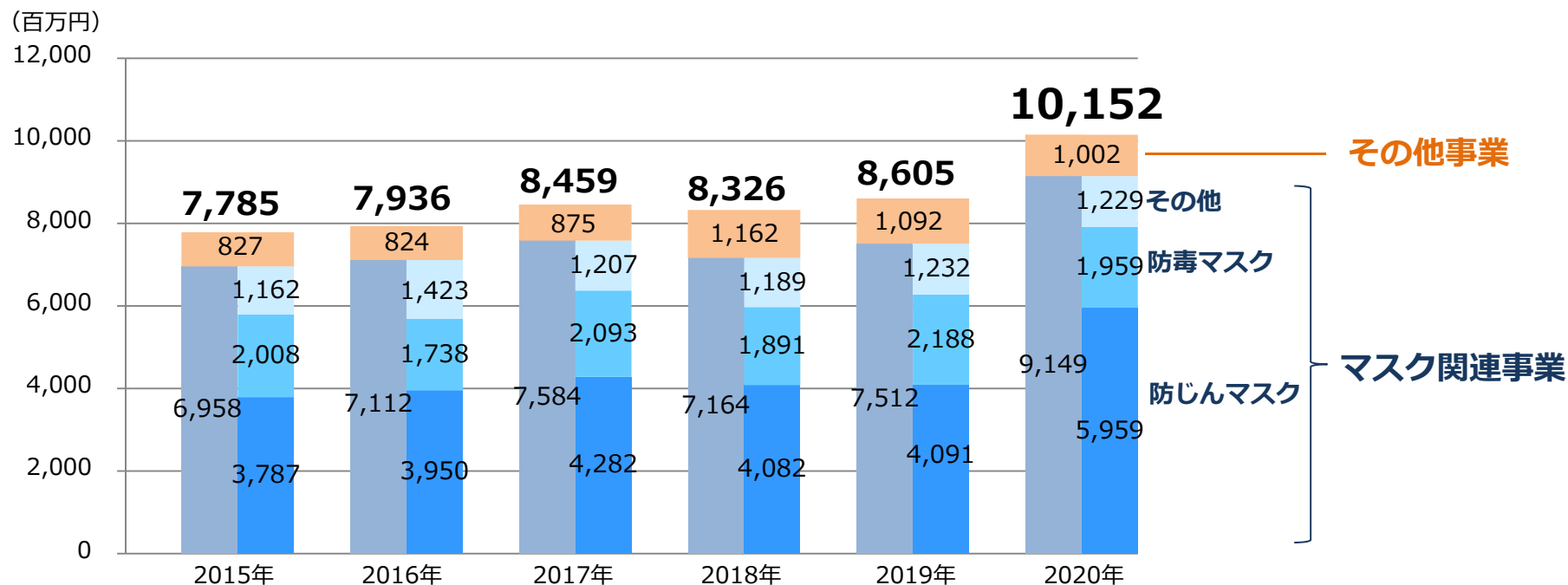
○過去最高の売上高、利益を収める

(単位：百万円)

	2019年12月期		2020年12月期		前連結会計年度比	
	連結実績	売上高比	連結実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	8,605	100.0%	10,152	100.0%	+1,546	+18.0%
売上原価	4,562	53.0%	5,261	51.8%	+699	+15.3%
売上総利益	4,043	47.0%	4,890	48.2%	+847	+21.0%
販売費・一般管理費	3,475	40.4%	3,757	37.0%	+282	+8.1%
営業利益	567	6.6%	1,133	11.2%	+565	+99.6%
経常利益	528	6.1%	1,097	10.8%	+569	+107.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	371	4.3%	837	8.3%	+466	+125.4%



連結セグメント別の業績



マスク関連事業

- ・感染症対策用マスクの医療分野での需要が急増・高止まりして推移し、年度後半からは政府・自治体等からの備蓄用としての注文も増加しました。そうした需要の増加に対し、当社グループでは、国内外でのフル生産を継続するとともに、群馬テクノヤード内に新製造設備を増設し、供給量の拡大に努めました。
- ・産業用の防じんマスク、防毒マスクについては、上半期はマスク不足の懸念による仮需が生まれました。第3四半期以降はその反動で、前年同四半期比10%程度の減収となりました。
- ・これらの結果、当事業全体の売上高は91億49百万円（同21.8%増）となりました。

その他事業

- ・オープンクリーンシステム「KOACH」については、対面営業の極端な減少から、販売件数、販売台数は前年実績を下回りましたが、前期受注済みであった大型機種「フロアーコーチ」の納入が続いたことから、売上高は前年実績を若干下回る水準を維持することができました。
- ・自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」につきましても、訪問営業の自粛や医療施設の経営悪化等により厳しい事業環境にありましたが、既存顧客の更新需要を受注に結びつけるなどし、売上を伸ばしました。なお、官庁向けの浄化装置の売上は、前年実績比94百万円減でした。
- ・これらの結果、当事業全体の売上高は、10億2百万円（同8.2%減）となりました。

連結財務の状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 2019年12月31日	当連結会計年度 2020年12月31日	増減	主な増減要因
資産の部				
流動資産	6,381	6,860	+478	仕掛品の増加：+202 原材料の増加：+167
固定資産	11,956	12,143	+186	建設仮勘定の増加：+136
資産合計	18,338	19,004	+665	
負債の部				
流動負債	4,520	4,325	△195	1年内返済予定の長期借入金の減少：△670 賞与引当金の増加：+169
固定負債	4,021	4,213	+191	長期借入金の増加：+173
負債合計	8,542	8,538	△3	
純資産の部				
純資産合計	9,796	10,465	+669	利益剰余金の増加：+711
負債純資産合計	18,338	19,004	+665	

連結財務の状況 (要約キャッシュ・フロー計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2019年1月1日 ～12月31日	当連結会計年度 2020年1月1日 ～12月31日	主な内訳
営業活動によるC・F	1,749	1,373	税金等調整前当期純利益：1,049 減価償却費：596 賞与引当金の増加額：169 たな卸資産の増加額：△405
投資活動によるC・F	24	△ 606	有形固定資産の取得による支出：△663
財務活動によるC・F	△1,464	△ 680	長期借入れによる収入：1,300 長期借入金の返済による支出：△1,797 配当金の支払額：△125
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 14	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	311	72	
現金及び現金同等物の期首残高	1,180	1,492	
現金及び現金同等物の期末残高	1,492	1,564	

事業トピックス①（新型コロナウイルス感染症への対応）

2020年1月後半から拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって対策用マスクの需要が一気に高まり、医療機関で使用されるN95マスクの不足が深刻化しました。そのような状況の中、当社グループは、日本の医療機関を守るため、以下の対応を行いました。

①緊急増産対応

- 医療機関にいち早くかつ必要数量を供給するため、使い捨て式防じんマスク「ハイラック350型（N95マスク）」の緊急増産体制をいち早く立ち上げ、受注、生産から出荷に至る一連のオペレーション管理を強化しながら、その維持に努めました。



医療現場で使用される使い捨て式防じんマスク「ハイラック350型」
マスク内側にあるFFリップが高いフィット性能を実現

- 国内（中井テクノヤード）、海外（SIAMKOKEN LTD.：タイ国チョンブリ県）の製造拠点2か所にて、増員によるフル生産を行い供給の増大を図りました。



中井テクノヤード



SIAM KOKEN LTD.

- 2009年の新型インフルエンザ（A/H1N1）の国内流行以降、当社グループでは、緊急増産の体制づくり、パンデミック時の行動要領等を整備してきたことにより、短期間での増産態勢に入ることが可能としました。
- 製品材料、部品は、ほぼ国産のため資材等の調達をコントロールし、原材料を要因とした製造への支障はありませんでした。

②タイ政府による輸出停止措置の解除交渉

- 2月よりフル生産体制に入り、全量を日本へ出荷
- 2月13日、タイ政府によりマスクの輸出許可が全面停止
- 現地にて情報収集、タイ政府との接触を重ね輸出許可取得に努めた結果、2月27日、輸出が許可され日本への出荷が再開
- 並行して現地生産のハイラック（N95）の同国への供給要請に対応

③生産設備の増設による供給量拡大

継続するN95マスクの不足、備蓄の推進及び政府からの増産要請に対応するため、国内の生産設備を増設し、供給量を拡大しました。

【増設の概要】

- 立地：当社群馬テクノヤード内（群馬県みどり市）
- 生産品目：使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズ
- 生産能力：月産60万枚
（現有能力の月産140万枚を200万枚まで引き上げる）



群馬テクノヤード

④緊急性の高い機関への分割出荷

- フィット性の高さなど、その高機能、高性能が評価され、感染症指定医療機関の6割で採用されてきた「ハイラック350型」ですが、平時においては大量に使用されるものではありませんでした。
- 今回の新型コロナウイルス感染症の拡大により、増産をはるかに上回る受注がありましたが、販売店と共に緊急度に応じ全国各地の医療機関への小口分納を拡大させ、特に医療従事者を護るべく、全社一丸となった取り組みを行いました。
- その結果、1年間で全国の約2,000か所の医療施設（病院、保健所、感染症指定医療機関等）に「ハイラック350型」を供給することができました。

事業トピックス②（医工連携による感染症対策用製品の開発）

当社は、東邦大学医学部微生物・感染症学講座、同麻酔科学講座及び東邦大学医療センター大森病院感染管理部、同先端健康解析センターと共同で、当社が有する超高性能フィルタ及び気流制御技術を使った医療用の陰圧デバイス3種を開発しました。

同製品は、いずれも新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が疑われる患者や検体から発生するマイクロ飛沫の拡散を防止し、医療従事者及び患者の双方に安心して安全な環境を提供することに役立ちます。

1. 気管挿管・抜管用陰圧フード 「DANTECT for Ti (Tracheal intubation)」

手術時の気管挿管・抜管は、マイクロ飛沫が大量に拡散するリスクがあります。そのため、現場ではアクリルボックスなどで患者の呼吸域を囲う対策が取られていますが、米国FDAから「陰圧化されていないボックスはかえって感染リスクを高める可能性がある」との発表もあり有効性が見直されています。そこで、陰圧化と小型超高性能フィルタによって高い安全性を持ち、作業性にも優れた、使い捨てできる気管挿管・抜管用フードを開発しました。

本製品は、段ボール・透明フィルムで構築されるフードと、小型超高性能フィルタ・ブローアにて構成されており、ブローアによりフード内部が陰圧化される(気流が内側に向かって流れる)ことで外部へのマイクロ飛沫の拡散を防止します。

このフィルタは、一般的なHEPAフィルタが $0.3\mu\text{m}$ の粉じんに対して99.97%以上の捕集性能を有しているのに対し、 $0.15\mu\text{m}\sim 0.25\mu\text{m}$ の粉じんに対して99.97%以上の捕集性能を有しています。



2. 病原体検査用陰圧BOX 「DANTECT for Pt (Pathogen testing)」

新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が懸念され、クリニック等での病原体検査が不可欠とされていますが、検体を扱う際に感染対策を講じなければ、かえって感染を広げてしまう結果にもなりかねません。そこで、どこでも導入しやすい安全・省スペース・低価格で、使い捨てできる病原体検査用陰圧BOXを開発しました。

本製品は、内側に撥水处理を施した段ボールと透明フィルムで構築されるBOX本体と小型超高性能フィルタ、ブローア、交換可能トレーで構成されています。フィルタと内部の陰圧化手法は気管挿管用フードと同様です。

また、バイオハザード対策用クラス1キャビネットと同等の構造・性能を有すると考えております。一般的な対策機器の導入費用が数十～数百万円であるのに対し、本製品は一式で28,700円と低価格です。（特許・意匠出願中／東邦大・興研共同）



3. 検体採取用陰圧ブース 「LAMIKOACH Np (Negative pressure)」

新型コロナウイルス・インフルエンザの同時流行に伴う検査数の急増に対応するため、安全かつ最小限の人数で効率的に検体採取が行える陰圧ブースを開発しました。プルフード本体と患者用ブースで構成されており、 $0.15\mu\text{m}$ 以上の粉じんに対して99.99999%の捕集性能を有する超高性能フィルタを搭載しています。一般的なHEPAフィルタを搭載した機器と比べ1万倍以上きれいな空気を排気します。

また、装置本体は患者用ブースの内圧を監視し、 -2.5Pa (CDCで陰圧室に推奨される差圧)を満たすように本体自ら風量を調整します。検体採取時に患者がくしゃみ等をしてマイクロ飛沫が発生しても、速やかに気流で飛沫をプルフードへ搬出します。



2021年12月期連結業績・配当予想

マスク関連事業では、引き続き感染対策用マスクの安定供給に努めるほか、電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンク」シリーズや使い捨て式マスク「ハイラック」シリーズなどの高性能・高付加価値製品による産業用マスクの需要掘り起こしを図って参ります。なお、医療施設向けについては、ワクチンの普及等により感染拡大に一定の歯止めがかかることも予想され、需要の減少も見込まれます。

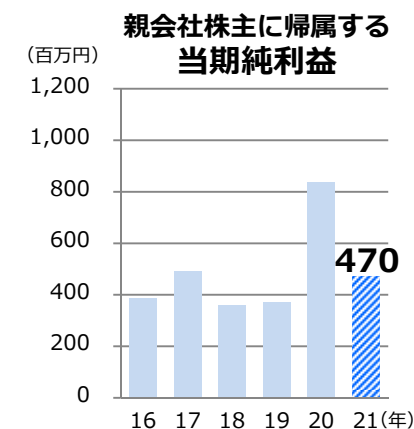
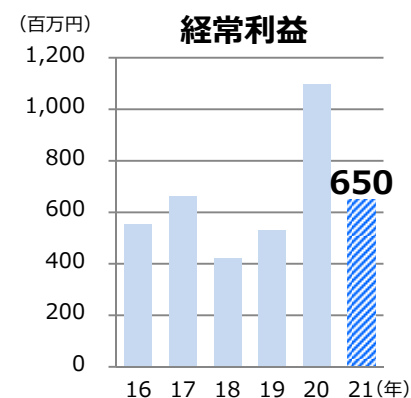
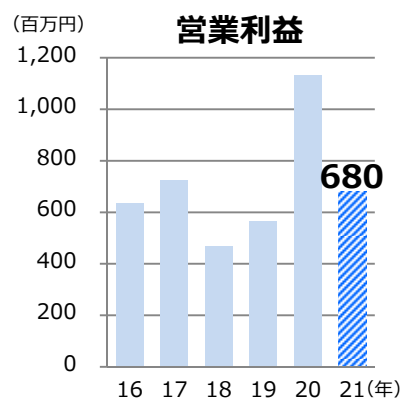
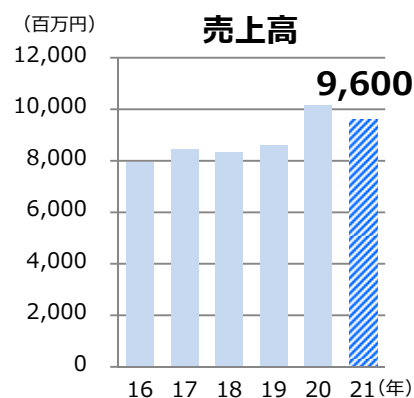
その他事業（環境関連事業等を含む）では、オープンクリーンシステム「KOACH」とフィルタ・気流技術を活用した感染症対策用製品の市場投入、内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」の普及拡販を代理店と協働して行って参ります。

以上により、2021年12月期は売上高96億円（当連結会計年度比5.4%減）営業利益6億80百万円（同40.0%減）、経常利益6億50百万円（同40.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益4億70百万円（同43.9%減）となる見通しです。なお、昨年増設したマスク製造設備が経済産業省の対象事業となっておりますが、現時点では未決定のため特別利益には計上しておりません。

今後の感染症及び経済環境の状況は大きく変動する可能性があります。そうした要因等により実績が予想値と乖離することが明確となった場合は、速やかに公表いたします。

（単位：百万円）

	2019年12月期 連結実績	2020年12月期 連結実績	2021年12月期 連結予想
売上高	8,605	10,152	9,600
営業利益	567	1,133	680
経常利益	528	1,097	650
親会社株主に帰属する当期純利益	371	837	470
1株当たり当期純利益	74円21銭	167円34銭	93円89銭
1株当たり期末配当	25円00銭	45円00銭 普通25円+特別20円	25円00銭



（注）この頁にある連結通期業績予想及び配当予想は、2020年12月期決算短信発表日（2021年2月12日）現在、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて記載しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2020年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2021年2月12日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いませんので、ご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
E-メール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <https://www.koken-ltd.co.jp/>